

1. Eikþyrnir (Intro)

アルバム・タイトル「Heiðrún / ヘイドゥルン」は、北欧神話に出てくる山羊。ヘイドゥルンは屋根に生えた草を食べて生活していて、神様たちのためにミルクではなくビールを出します。今回のアルバムは、この神話から着想を得て、楽器「山羊の角」を中心に据えて制作しました。

Eikþyrnir も北欧神話に出てくる赤鹿。演奏したのは《Geitelokk fra Gol (Gol から山羊を呼ぶ声)》という伝統的な曲で、Gol はスターブチャーチ（古い教会）のある地方です。この美しいメロディーを大切にしたいと、山羊の角とピアノだけのシンプルなアレンジにしました。

2. Alsviðr (Reisesátt fra Nes / Söndagspols / Fanitullen)

「Alsviðr / アルスヴィズル」も、同じく北欧神話に出てくる動物ですが、こちらは太陽の車を引いている馬です。1曲めにフィドルで演奏しているのが《Reiseslátt fra Nes (Nes からの旅節)》。これはわたしが mokurset というノルウェーのサマーコースで習ってきた曲ですが、少しだけ旋法を面白い響きに変えて演奏しています。《Söndagspols》は中間部に出てくるアラビヤ的な響きの部分。Pols はノルウェーの伝統的な踊りで、独特な三拍子が特徴です。無機質な四つ打ちのビートの中で、無心で引きずった Pols のリズムを演奏したのはいい思い出です。Setesdalen からの《Fanitullen》は曲の中でハッピーな感じのするところです。

3曲をまとめて一つの曲として演奏するという事は普通ノルウェーではしないので、挑戦してみました。が・・・我ながらよくできました。○聴けば聴くほど気に入っています。

3. おじいさん節 (Bestefarsslåtten)

2015 年夏、はじめてのノルウェーへの飛行機の中、隣の座席のオスロ大学の学生さんと仲良くなりました。「ノルウェーの伝統音楽を学びに行くんだ！」と意気揚々と話すわたしに、彼は「フィドルはカッコいいけれど、ハーディングフェーレはダサい。セリエフルトにムーンハーブ・・・？うわあ、マジで最悪で、スゲー退屈で、うわあぁぁ、本当に最悪だ・・・！」とおでこのあたりに手をあてながら絶叫してくれました。ノルウェーではハリングという男性の力強い踊りは比較的若者にも人気があるし、日本よりは伝統的な音楽への関心が高い、とわたしは感じていたのですが、おそらくこの「お

じいさん節」は、最強にダサイものの筆頭といえるでしょう。3拍子系の踊りの曲です。彼らにダサイと言われないように、クールに編曲しました。驚かないでください。

4. Heiðrún

このアルバムの中での唯一のオリジナル曲(?)です。サクソ、ギター、ハーディングフェーレなどの様々な音色で山羊の角を彩りました。ノルウェーの冬山を感じていただければ幸いです。

5. 山羊さんにご機嫌ななめ (Sparklausen)

ハリングです！わたし、ハリング大好きです！

オスロ出身のモーテンさんの話によると、昔は社交場のようなところでこういう踊りの音楽が踊られていたそうです。つまり、現在でいうとクラブなのかな？ということで、クラブ調にアレンジした結果、ディスコサウンドになりました。わたしにはトロルがみんなで踊っているように聴こえます。

6. Eikþyrnir (Geitelokk fra Gol)

1曲めにイントロとして入れた曲、こちらではフィドルで伴奏をしています。

7. 太陽の季節 (Juniorvalsens)

お隣の国、スウェーデンから、一曲お借りしました。そして、レコーディングの最終日にマイクを一本だけ立てて、一気にえいやっと録ってみました。

モーテンさんのピアノはとてもノルウェーらしいリズム感を持っていて、わたしが想像していたのとはまったく違う曲になりました。とっても気に入っています。

8. 社交場は僕たちのもの (Kørsdansen / Pariser etter Johanna Eldegard)

1曲めはフィドルで、2曲めはハーディングフェーレで演奏しています。ハーディングフェーレはたくさんチューニングがあるのですが、2曲めに関しては圧倒的にフィドルよりハーディングフェーレのほうが弾きやすいです。そして2曲めのダサイ(?)口琴が個人的に好きなポイントです。ところで、1曲めには「ディ○ニー」というトラック名のもものが仕込まれていました。ひたすら楽しい制作期間でした。

9. 真白な家路 (Jeg Ser Deg o Guds søte Lam å stå)

こちらも Mokurset で習ってきた曲です。Bjørn Kåre Bråten Odde というフィドル奏者

が Lom の出身で、彼の地域に縁のある賛美歌を演奏しました。

ノルウェーはおおまかに言うと東の方ではフィドルが、西の一部ではハーディングフェーレが盛んです。Lom はフィドルの地域なのでフィドルの曲が沢山あります。楽器は違えど、Springar、Halling など踊りの種類は共通していて、しかしリズムは地方ごとに独特の訛りがある、というのが、ノルウェー音楽の面白いところだなあ、と思っています。モーテンは都会出身、わたしは日本出身なので、そういう色々を横断して聴いたり演奏したりを自由に楽しめるのが、ひっそりこっそり楽しいです。

10. エリック道眞の子守唄 (Hamborg)

モーテンさんが初めて聴かせてくれて以来、てっきりモーテンさんが作曲した曲なのか、と勘違いしていた、本当に美しいメロディーです。

実は、モーテンさんの子どもが生まれた時に病室で繰り返し流していたという、この曲の笛とピアノでの演奏 ver. があります。その音源がものすごく素敵だったので、どうアレンジしようか迷いましたが、思い切ってフィドルとハーディングフェーレをたくさん重ねてイントロを作ったり、どんどん音を重ねていった結果、子守唄というよりはお祝いソングのような雰囲気です。ノルカル TOKYO は今年8月にはノルウェーでのレコーディングを計画するなど、これから新しい展開が待ち受けています。その個人的なわくわくと、お聴きくださったみなさまへの感謝の気持ちも込めたような、そんな曲に仕上がりました。

ライブでは、シンプルなアレンジでの演奏もしたいと思っています。ぜひ、ライブにも足をお運びいただけたら嬉しいです。